

みんなの文芸



俳句

ことぶき俳句会

大根干す女の掟おきてや塩かげん
 稲田 文江
 帰るべくふる里もたず冬ざるる
 大山みどり
 身のまわり気づかぬうちに秋深む
 長谷川アキ
 まゆ玉の家内安全更けゆく夜
 福原 仁子
 電線にからすうごかず食事かな
 渡邊 道
 雁がねやすく立ちたい手なし仏
 高橋 悦子

川柳

浦幌川柳会

課題吟 夢
 叶わぬと知りつつ恋の夢を追う
 星 愛子
 まだ叶う小さな夢と左四つ
 加藤 未貴
 欲ですか片手で足りぬ夢を追
 橋本 葉子
 二人行く四国遍路が夢となり
 山村 幹雄
 夢綴り下書きの無い余韻読み
 阿部 麗紅
 八十路には夢があるとは思わぬに
 柴田 弘子

川柳

上浦幌句の会

カラフルに色づきての野山かな
 高橋 幹雄
 空陸の楽しい旅も覚悟あり
 笹島カヨ子
 老いたれど希望捨てずに明日を待つ
 河村みよ子
 馴れ過ぎて心の隙間に角が立つ
 冬用に野菜の貯え庭に山
 河村みよ子
 袴姿振袖姿の五・三才
 芳川 乙美
 お手本にしたい絆のサザエさん

短歌

心友愛会

風強し赤いほうずきカサカサ揺れて
 秋の深まり感じて通る
 長屋美代子
 会の事大事と思ひ鞭をうち
 かなわぬ体はがいく思う
 小川 房子
 杖をつき散歩している後ろから
 声掛けていく日暮れ時あり
 小澤 つや
 楽しみも元気でいれば何よりで
 一人で生きる勇気貰えて
 前川 静江
 今一大家族と離れ夕食は
 有る物だけで一日終わる
 角田美代子
 孫達とスケート遊び楽しみに
 冬が来るのを指折り数え
 浅野 京子
 秋晴れの空高く飛び来る白鳥
 への字描き餌を求めて
 山岸 明美
 盆が過ぎもう秋風が吹く夜は
 なかなか眠れず身に染みる夜
 堀井あやの
 秋晴れの日々続く中取り込みを
 汗を流してひと湯をあびる
 山久保敬子
 今までの心の毒素吐き出して
 坂道登り永遠への無えと
 佐藤 成子
 雪虫の飛びかう中に秋は暮れ
 小春日続くき朝夕寒し
 星 愛子

編集後記

■ 広葉樹やカラマツの葉がほとんど落ち、いよいよ冬が近づいてきました。今冬は町内の若者を中心に新しいイベントを企画しているそう、とても楽しみです。

■ 晩秋の風物詩、南下するマガンやヒシクイなどの渡り鳥が数万羽、十勝川下流域に集まっています。特に美しいハクガンは国内で確認されているすべてが集まっているとみられ、貴重な観察ポイントとなっています。

■ 町内の河川では、遡上したサケが自然死している姿も見られます。壮絶な姿ですが、母なる川が清らかである証拠。来年もたくさんサケが返って来られますように。

(大)

■ 掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)、お気軽にご連絡ください。